

ワーキング・ウーマンの「真夜中のテニス」

西野知成

颯爽と街をゆくワーキング・ウーマンのさげるカバンが年々大きくなっていることにお気付きだろうか。

女性の社会進出、活躍領域の広がりと共に彼女たちの携帯品も化粧道具と財布だけでなく、手帳、書類などが増えてきた。映画「赤ちゃんはトップレディがお好き」(八七年)、「ワーキング・ガール」(八八年)の中で、上昇志向のキャリアを目指すヒロインたちが、マディソン・アベニューやウォール・ストリートを颯爽と足早に歩く、エグゼクティブ・スタイルのファッションが東京のビジネス街にも浸透してきた。

これまで小ぶりのものが多かった女性用のハンカチ、傘なども男性サイズと変わらない

大きくなってきているという。女性らしさを強調したものから性別を意識させない機能重視の商品に人氣が移行しているようだ。これには、女性の体格の向上という物理的要因も大いに関係がありそうだ。

総務庁発表の九二年就業構造基本調査によると職業を持つ女性が初めて五割を超えた。それによると、十五歳以上の男女のうち、定期的に仕事をしている有業者の割合は、男性が七七・六%、女性が五一%となった。

一九六二年頃「女子大生亡国論」が話題となった。当時ほとんどの女子学生は教養を身に付け、結婚のための条件作りの進学だったというのだ。いま「女子学生興国論」(池田優慶応大学教授・「文芸春秋」九十年六月号)。

少し前だったか、母校の卒業式に招待されたことがある。成績優秀につき右総代はどの学部もほとんど女子学生で占められていた。そのなかで男子学生がたまたま指名されると会場に爆笑と拍手がドッと沸き起こった。どの大学でもみられる風景のようだ。

八五年、男女雇用機会均等法が成立、施行され一部の企業では、転勤、残業もある基幹業務に従事する女性の総合職を設置、給与などの待遇面で男性と差別しない代わりに、女性の持ち味を生かしその能力を活用しはじめた。当時、好況の追い風にのった企業は女子学生の採用に意欲をみせた。

しかし「バブル経済」崩壊の後遺症の影響は大きく、今年の就職戦線はまさに異常ありとくに女子学生にとっては厳しいシーズンと

なった。しかも企業内部で女性の総合職見直しも取りざたされるなど、就職差別企業に対する不信感が強まったのも事実である。一方、女子学生側での総合職への意欲もまたイマイチのようだった。

「今、二十九歳」揺れる女性総合職一期生の心のうちは？」(NHK「クローズアップ現代」九三年八月二十六日放送)によると、七年経った総合職一期生のその後では、ある企業同期四十二人のうち、今も残っているのは十九人、専業主婦十四人、転職七人、不明二人とのこと。解説によると四年で六割、六年で七、八割の人が辞めていくのが平均値とか。放送された結婚、出産、育児、仕事と頑張っている先達総合職一期生の日常生活には心打たれるものがあつた。

岸本加代子ふんするキャリアウーマン風の女性が倒れ込むように座りながら、「疲れるな。仕事やめちゃおうかな」のテレビCMがいやに実感をもつて迫ってくる。そこに働く女性の本音をかいま見るようだ。

「バブル」の最盛期、ファッション、グルメ、

マンションの衣・食・住の三点セットを中心に複数の若い男女の恋をカッコよく描いたトレンディドラマが、若い女性の間でたいへんな人気番組となった。しかしその経済的背景は不明で、彼女たちの働く姿を見せることはなかった。なぜかこれまでテレビドラマは女性の職場をリアルに描いたことがない。

そんななかで、テレビドラマ「真夜中のテニス」(作・田向正健、NHK、九十年四月、五回シリーズ)が強く印象に残る。大手銀行為替資金部に勤めるヒロイン理恵子(名取裕子)二十九歳が、狭き門の総合職試験にパスして、同期入社でまだ制服組の容子(長谷直美)に差をつけて為替ディラーになる。ヒロインが尊敬と信頼を寄せる女子行員の出世頭、礼子(佐藤友美)四十二歳は、いかにキャリアを積んだ女性管理職らしく険

熱血直情径行型の同僚志賀(宅麻伸)。

このドラマも強くなった女性が男性の職場への進出を背景に進展していくが、ヒロインは「男社会」という障害にぶつかると。根強く残る職場での男女差別、セクシャルハラスメント、男女関係……。ヒロインは出勤途上、駅のホームで下りを上りと間違えて反対方向の電車に乗ってしまうこともしばしばだ。女性たちの働く姿をシビアに描いた本格派職場ドラマの登場だ。ひと頃はやったトレンディドラマとは大違いだ。

彼女たちはドラマの中で、「これまで男性の歴史が長すぎた」、「女だって恋をエンジョイできるワ」、「男の歴史の終わり」……を口にする。そしてバランス感覚に優れた部長をして「小数派(女性)」の時代はそこまできているのだ」といわしめる。その小数派のストレス解消法は女性たちだけである「真夜中のテニス」なのだ。

そういえば、今夜も「真夜中のテニス」で汗をかいた女性たちのお気付きだらうか。